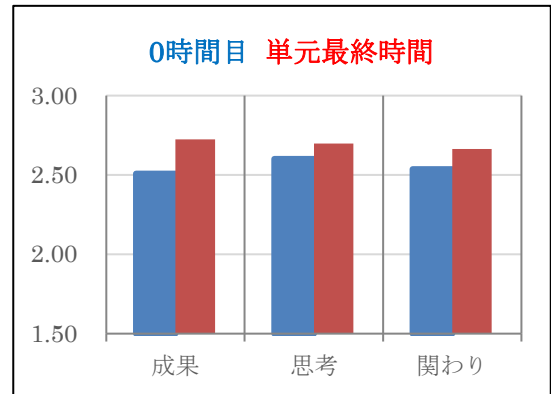
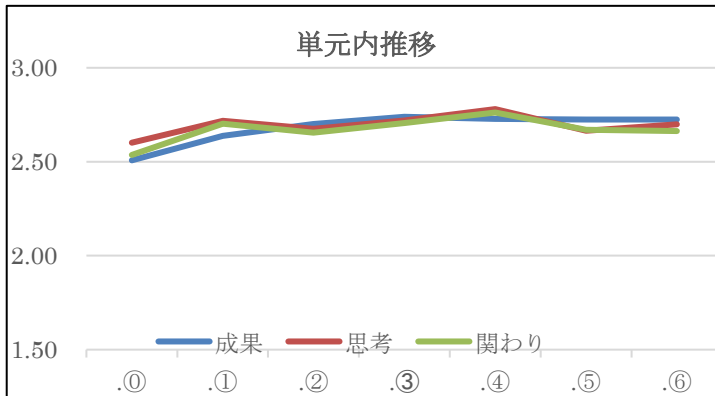


1 単元名 めざせ！鉄棒マスター！！

(器械・器具を使った運動遊び・鉄棒を使った運動遊び)

2 児童の変容

(1) 情意面 (形成的授業評価をもとにした授業評価から) 男子17名 女子14名 計31名



- ・「成果」「思考」「関わり」全項目で単元前よりも数値が高くなった。児童にとっては、初めての鉄棒を使った運動遊びだったため、様々なことを学習していく中で、習得していったからだと考える。
- ・「成果」は3時間目までは数値が上昇した。体ならしの運動や自分で遊びを見付けたり、友達の見付けた遊びに挑戦したりする活動の中で、「はじめてやった」「やってみたらできた」という児童が多くいたり、補助で苦手意識があることにも挑戦できたりしたため、成果として数字に表れたと考えられる。また、4時間目以降は数値にあまり変化が見られなかった。自分で遊びを見付けて挑戦していた前時までとは異なり、関わり、思考しながら遊びを行っていたため、成果を感じづらかったと考えられる。
- ・「思考」は2時間目に数値が少し下降している。体ならしの運動など、自分で考えるというよりはやり方や順番を確認して行ったため、数値が低くなったと考えられる。4時間目は上昇している。自身の課題を持って、友達に伝えて見合う学習を行ったため数値が伸びたと考える。
- ・「関わり」は2時間目に数値が少し下降している。思考同様、自分で取り組む時間が多かったため、数値が低くなったと考えられる。4時間目に高い数値を記録したのは、自身の課題を持って、グループの友達と見合いながら学習したためだと考える。友達と関わりながら、友達と共に試行錯誤しながら学習できたことで、数値が高くなったと考えられる。

(2) 技能面

	①跳び上がり跳び下り (ジャンプして鉄棒に上がり、 腕支持で体を支えることができる。)			②だんごむし (肘、膝を曲げて体をぎゅっと 縮めることができる。)		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	28	2	1	17	12	2
単元後	31	0	0	22	8	1

	③足抜き回り (リズムよく両足をそろえて足を抜いたり 戻したりできる。)			④手つきこうもり (足をかけてさかさまになり、 地面に手をつくことができる。)		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	0	15	16	18	8	5
単元後	9	18	4	28	3	0

⑤こうもり下り (手つきこうもりの姿勢から、片足ずつ下ろすことができる)			
	できる	もう少し	できない
単元前	9	11	11
単元後	22	9	0

- ・単元前と比較して数値の上昇が見られる。体ならしの運動で、ふとん干しやつばめなどさまざまな運動を取り入れたことで基礎感覚が身に付き、技能向上につながったと考えられる。また、技能下位の児童の中には、経験したことがない児童や、恐怖心をもつ児童も多くいた。補助をしながら経験し、安心して挑戦できるようになった児童も多い。
- ・本単元の主運動である足抜き回りは、できる児童ともう少しでできる児童が増えたが、できない児童も残ってしまった。補助して回ることはできるが、引き付けたり締めたりする基礎感覚がつかみきれない児童は、回ることができなかった。手つきこうもりや手つきこうもり下りは、ほとんどの児童が逆さ感覚を掴むことができたため、できるようになった児童が増えたと考えられる。

(3) 思考面

問 あしぬきまわりをじょうずにするには、どんなことにきをつければよいかな。(複数可)		
単元前		単元後
・わからない。	9	・ひじをまげる。 1 7
・たかくじゃんぷ	2	・てつぼうにあしがあたらないようにあしをまげる。
・ひじをまげる。	9	1 5
・あしをてつぼうにかける。	2	・てつぼうをぎゅつとにぎる。 8
・じゃんぷする。	9	・じめんをキックする。 5
・あしをちぢめる。	1	・なんどもれんしゅうする。 4
・てつぼうをてでつかむ。	5	・りょうあしをそろえてじゃんぷする。 4
・じめんをキックする。	1	
・あたまをさげる。	3	
・ちからをためる。	1	
・なんかいもれんしゅうする。	3	
・てつぼうにあしがあたらないように。	1	
・りょうあしをそろえてじゃんぷ。	3	
・ひじをのばす。	1	

- ・足抜き回りの知識が定着し、技能ポイントとなるような記述がみられた。肘を曲げるや力をためるなど、引き付ける力についての記述が多い。児童が技能ポイントを意識し、課題解決に向けて考えながら学習することができた成果だと考える。

3 成果と課題

低学年のめざす姿

見合う伝え合う活動を通して、自分のめあてに向かって繰り返し取り組む児童

【成果】

- ・体ならしの運動では、グループ全員で数を数えたりタッチしたりすることで、友達に目が向けられ、関わることができた。また、掛け声をかけながら体ならしの運動を行ったことで、どんな運動を行うかを理解し、一人一人が進んで運動を行えた。
- ・自分の本時のめあては、学習カードに書いたり、めあてを声に出して友達や教師に伝えたり、運動のポイントが書かれた学習板に掲示したりしたことで、自分がどんなことに取り組むかを意識して運動できた。
- ・関わりの声掛けを学習板に掲示することで、関わりが苦手な児童や伝え方がわからない児童がかかわりを持てるきっかけとなった。
- ・教師が補助をすることで、感覚が身についたり体の使い方を理解したりして、できない児童も繰り返し挑戦することができていた。

【課題】

- ・遊びの中で、様々な動きを体験できるように、体ならしの運動や運動遊びを仕組んだが、体の締めや引きつける力など、主運動に必要な力が身についていないため、できない児童が出てしまった。基礎感覚を養える動きにたくさん取り組むことが必要と考える。